

平和を希求する心を育てる取組

報告年月日

2018年6月27日

都市名・国

ボルゴグラード・ロシア

取組の名称	ボルゴグラードにおけるヒロシマデー
実施主体 (該当項目に✓)	<input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 自治体 <input type="checkbox"/> NGO <input checked="" type="checkbox"/> 複合 (ロシア平和財団ボルゴグラード支部、ボルゴグラード市、ボルゴグラード広島友好会、国際友好クラブ)
テーマ・目的	日本文化及びボルゴグラードと広島をつながりについて認知度を高めること。ロシアと日本の相互理解を進めること
対象者 (年齢・学年、人数等)	9歳から14歳の子ども25名。16歳から20歳の学生8名。大人19名。
実施場所	ロシア平和財団ボルゴグラード支部
実施期間	2018年6月27日(1日間)
<p>取組の概要</p> <p>ボルゴグラードの姉妹都市である広島友好の日イベントが、6月23日サッカーW杯日本・ポーランド戦の前日にロシア平和財団ボルゴグラード支部で開催された。2時間の聴衆参加型のプレゼンテーションと、自由参加の1時間のイベントとして行われ、各国からのゲストやサッカーファン、若者や市民社会のメンバー、学生たちが集う場となった。</p> <p>イベントは午前10時に始まり、広島とボルゴグラードの長年の友好関係について、ボルゴグラードと広島の名誉市民であり、ロシア平和財団ボルゴグラード支部長でもあるユーリ・スタロヴァティフと、地元の国際友好クラブ会長のオルガ・ベツポロドヴァによるプレゼンテーションを中学生が聴講した。名誉ゲストとして在ロシア日本大使館の古谷徳郎参事官が出席した。</p> <p>11時からの2番目のプレゼンテーションは、ボルゴグラード広島友好会のメンバーが大学生に向けて行った。ボルゴグラードにある日本をテーマとした場所(ヒロシマ通りと2002年に秋葉前広島市長が植樹したサクラの木)や、毎年8月6日8時15分にボルゴグラードで行われている広島の原爆犠牲者追悼セレモニー、2012年と2016年に広島とボルゴグラードで共同開催された青少年国際平和未来会議、日本語と日本文化のもうひとつの学園祭(略して「ジャパニーズ・カップボード」)について説明した。</p> <p>3時間目は、ボルゴグラード広島友好会とロシア平和財団ボルゴグラード支部のメンバーによって、会場が道行く人々に開放された。その多くは、同じ通りの先にあるサッカーW杯のID登録センターに向かう人々だった。</p> <p>ボルゴグラード市民が日本文化に関する講義を聞くだけでなく、直接体験する機会となった。本物の着物を着たい人や折り鶴の折り方を学びたい人は、誰もがその場で体験することができた。</p> <p>友好の日の締めくくりとして、参加者は地元の青少年センターで広島のシンボルである鯉のぼりを掲揚した。古谷参事官もボルゴグラードの子ども達とともにこの行事に参加した。</p>	
<p>参加者の反応</p> <p>全体の反応は一様に良好だった。多くの参加者は、日本を主題とした場所や行事がこれほどたくさんボルゴグラードにあるとは知らず、友好の日の終わりにはこうしたことについてもっと知りたがっていた。</p>	
<p>成果</p> <p>参加者は日本や広島、原爆についての新たな情報を得た。生徒達は日本語を練習する機会をもち、日本語コースに登録した。</p>	

課題
なし

取組で使用した素材について

ロシア平和財団ボルゴグラード支部が用意したパワーポイントによるプレゼンテーション。広島と原爆についてボルゴグラード市が提供した本。ボルゴグラードと広島の協力関係に関するポスター

上記素材の共有の可否

掲載可能（素材を添付してください）

掲載不可

不明

※ 画像等の資料がある場合は別ファイルで提出してください。

ボルゴグラードにおけるヒロシマデーの写真



古谷徳郎参事官による挨拶



佐々木禎子さんについての講義を聞き、折り鶴を習う子ども達



鯉のぼりへの署名を終えた生徒達



空に泳ぐ鯉のぼりを見上げて



日本語学習者と日本からの交換留学生